

かじんらいさん
佳人礼賛 —うるわしの姿を描く—

秘蔵の名品アートコレクション展

ホテル・オークラ（東京）アスコットホール 2017.07.31～08.24

今年で23回目を迎えるチャリティーイベントは、「人物の姿」：西洋画、日本の洋画、日本画に現れる佳人の姿の特集として、女性を主題とした作品を中心に様々な肖像画、風景画「73作品」が公開・展示されている。

第1章 肖像画のまなざし

西洋絵画に見られる魅力的な女性像、そして日本の洋画の女性の姿に注目。



モイズ・キスリング (1891～1953)



アメデオ・モディリアーニ (1884～1920)



《スペインの女》 左図

《婦人像》 中図

第2章 美人画に見るうるわしき佇まい

江戸時代までの美人図の伝統から発展した「美人画」の二大巨匠。

上村松園 (1875～1949) 《うつろふ春》 霊友会妙一コレクション 右図

1948年には「文化勲章」を受賞した日本画家の女性で、独自の優雅な作風の美人画の境地を開いた作品は、端麗な筆致で生み出されている。

鏑木清方 (1887～1972) 《七夕》 《さじき》

伊東深水 (1898～1948) 《楽屋》

第3章 人物像の魅力に出会う

物語場面の中に登場する人物描写や日常の情景に登場する人々が見せる豊かな表情は実に魅力的で、「シャガール」などの情緒に満ちた作品が見物である。

鏑木清方 《雨月物語3 ちぎり》

ノエ・ポルディニョン 《軽い訪問》

培広庵コレクション 《洛中洛外図（部分）》